



流動する大地

～ 700Mのハケの道における新たな公共の提案～



点在しているものを線としてとらえなおすこと。

はじめに 流動する公共

これまで、都市の開発の裏側で取り残された公共空間やそこでの人々の暮らしの在り方について研究してきた。

自身の経験として、2019年9月からのフランス留学時には、大規模な鉄道ストライキやコロナウイルスによるロックダウンした街で過ごす中で、トップダウン型の都市開発の限界や都市のもろさを実感した。その中で、本研究では不確定な都市の変化やエラーを受容できる公共空間の在り方を模索したい。

どこにでも同じように適用されてきた公共の骨格が成り立たなくなってきた昨今、場所独自の文化やその場所でしか成立しない恒久的な公共の骨格を再発見し、建築することで生き方を再構築することがこれからの建築家の役割として求められるのではないかと考える。

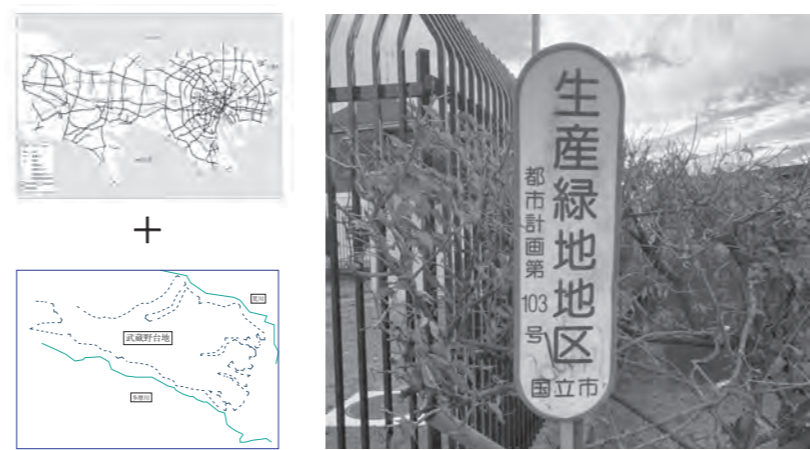
そこで本研究では、これからの公共空間の在り方として一つの目的のために集まり、またいなくなってしまうような場のつくりかたではなく、**人や物が流動し、絶えず入れ替わることで生まれる公共空間**の在り方を考えたい。



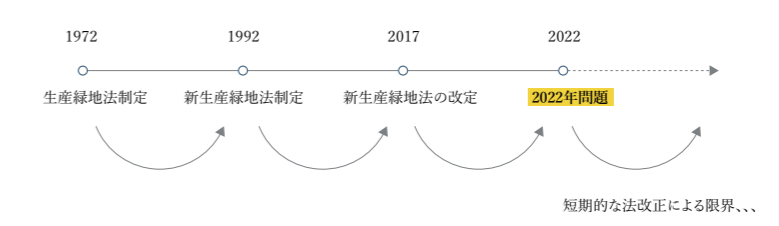
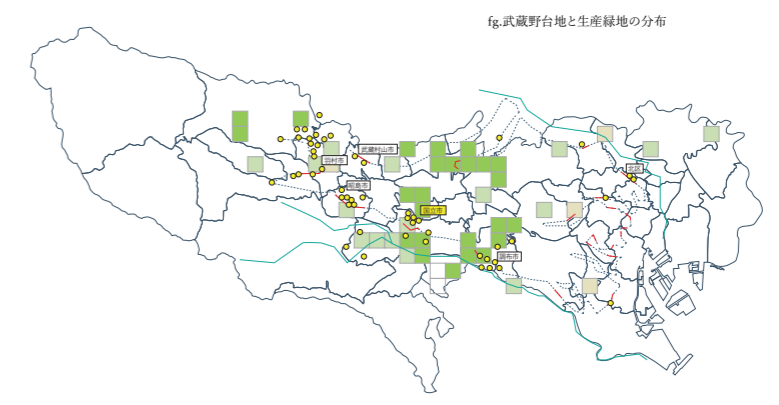
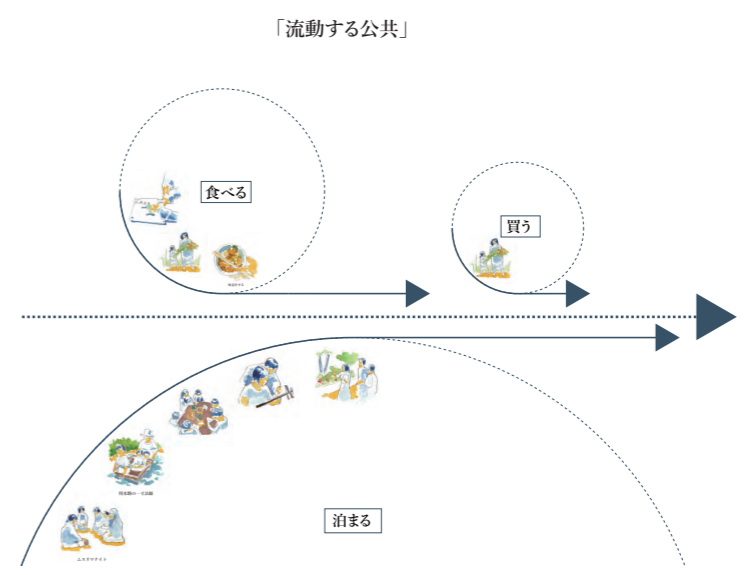
左/2024 パリオリンピック選手村の調査 (パリヴァレット建築大学) : 右 / フランス史上最長の鉄道ストライキ (2019/12 ~ 2020/2)



左/オギュスタン・ベルク:中央/風土の日本:右/フランス史上最長の鉄道ストライキ (2019/12~2020/2)



方面区分	ハケの名称	地名の数	交差する道路	長さ
武蔵村山市	狭山丘陵	2	新青梅街道 / 都道 162 号線	1200m
羽村市	立川丘陵	9	青梅街道 / 秋川街道	1000m
昭島市	立川丘陵	5	東京環状線 / 都道 230 号線	1300m
国立市	立川丘陵 / 青柳丘陵	9	甲州街道 / 日野ハイパス	700m
調布市	国分寺丘陵	7	東八道路 / 人見街道	300m
北区	上野台地	2	環状八号線 / 環状七号線	1800m



背景 点在する生産緑地

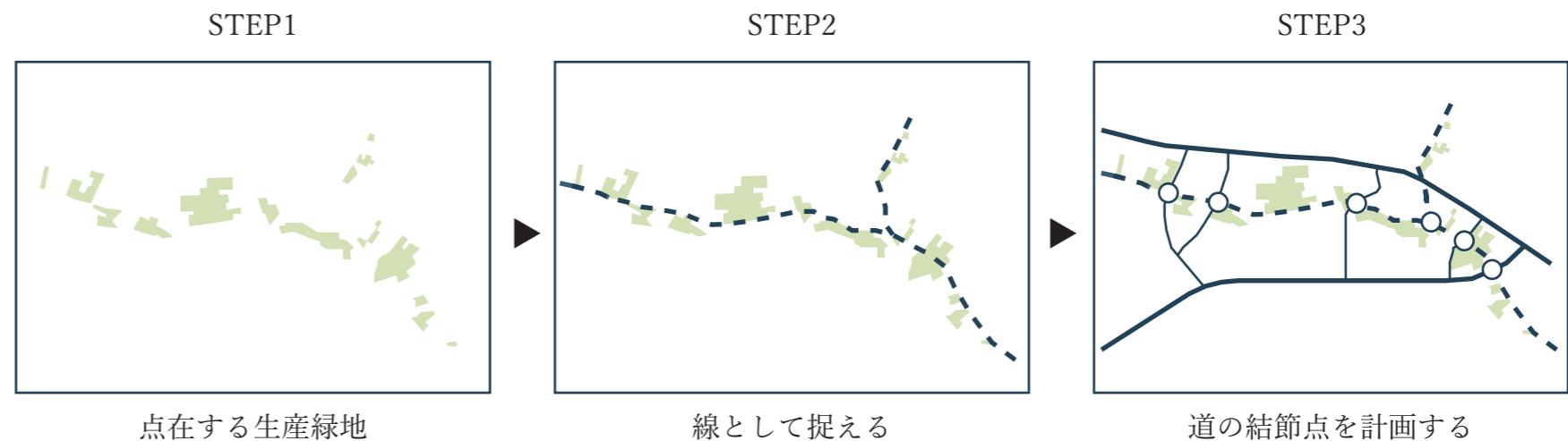
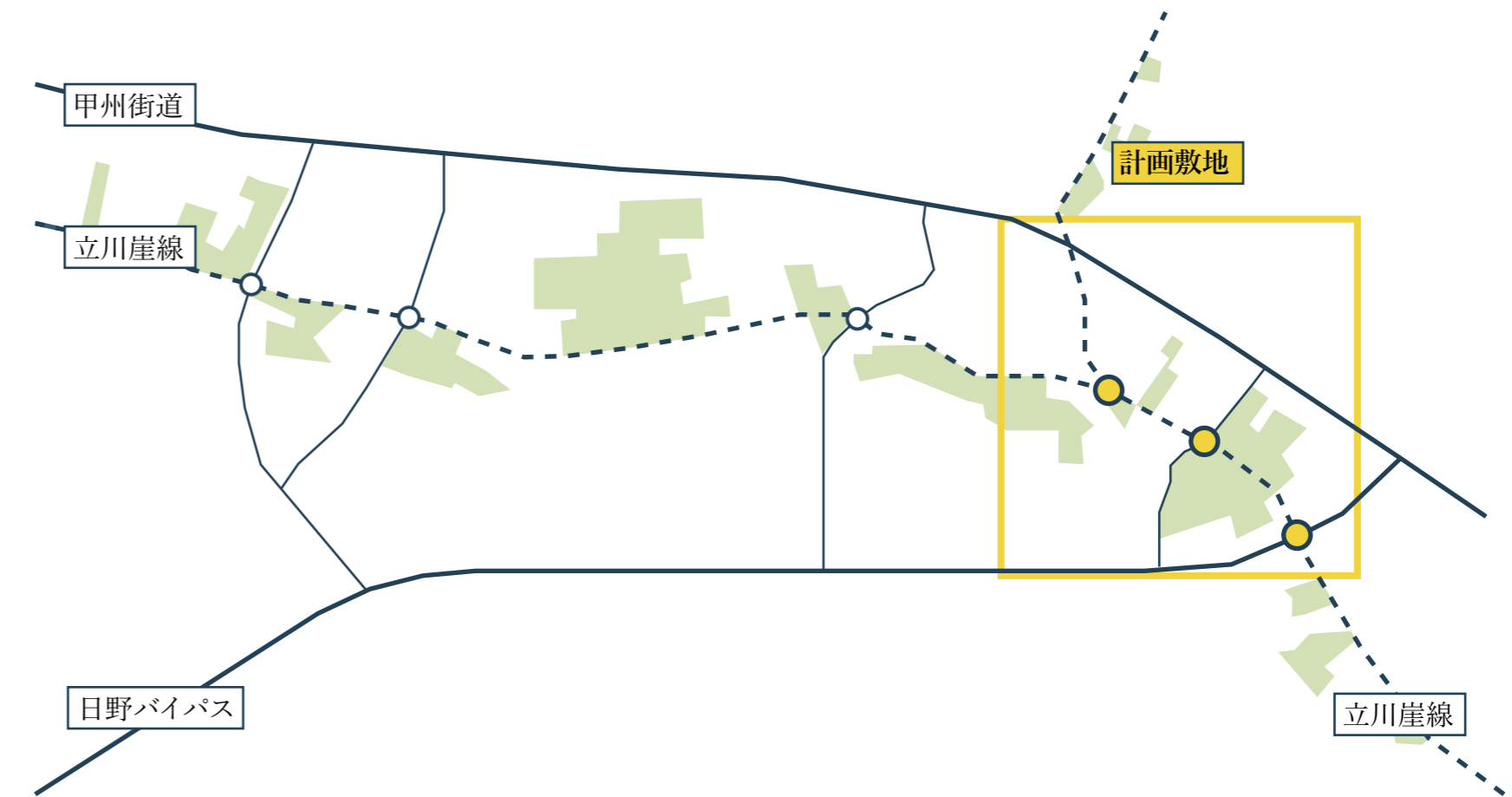
日本の公共空間におけるその背景のひとつとして**生産緑地の2022年問題**がある。現存する生産緑地の約80%は1992年の改正生産緑地法により指定されたもので、30年間の営農義務が過ぎる2022年には、多くが宅地化されていくのではないかと懸念がされている。

生産緑地が多く集まっているのは東京の郊外であり、そのうち約40%は**武蔵野台地のへり沿い**であることがわかった。これはこのへり沿いに湧き水が多く出ること起因し、その台地とそこでの暮らしの総称はハケと呼ばれている。

本来、点在する生産緑地を崖にへばりついた線として捉えてみることで、短期的な法改正によって作りだされる場のつくられ方ではなく地元住民や外からやってくる人々を巻き込んで**自らの手でつくっていく**新たな社会基盤を構築する。

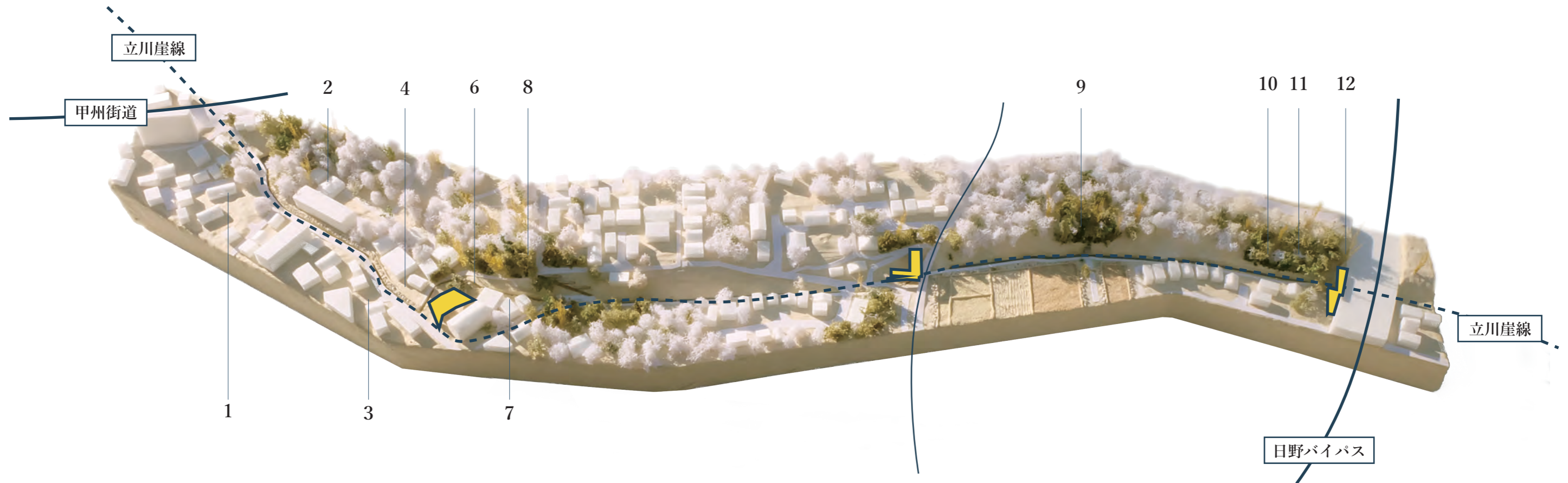
近い距離で二本の幹線道路が並行してはしる場所では、交通量緩和のためのバイパスによってハケの道は細切れに分断されている。今後、崖線にへばりつくように点在する生産緑地や生態系への影響が懸念される。

fig.幹線道路(甲州街道/日野バイパス)によって分断されるハケの道



計画敷地 約 700m ハケの道

fig.『立川崖線700mのハケの道』 S=1/500 敷地模型



● 計画敷地

市の整備計画図において実際に今後、宅地化されることが検討されている日野バイパスと甲州街道という二本の幹線道路によって分断された立川崖線の約 700M のハケの道を計画敷地とする。その中で線が交差し、分岐する場所を選定し、大中小の異なる体験をする三つの計画を行う。



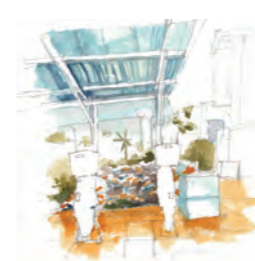
1. 常盤の泉の湧き水



2. 神社裏の遊び場



3. 放課後の用水路



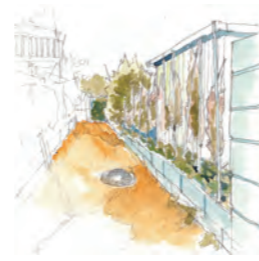
4. 自転車置き場と薪



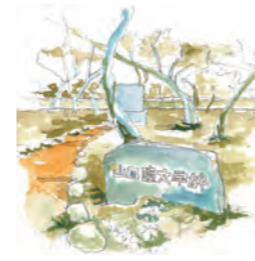
5. 自主施工した菜園



6. 自主施工した生垣



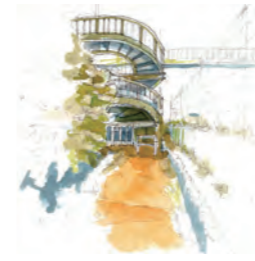
7. 私道への入り口



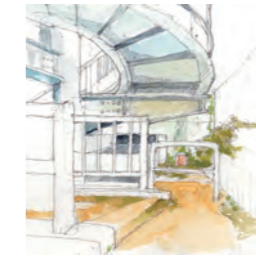
8. 山口瞳文学記念碑



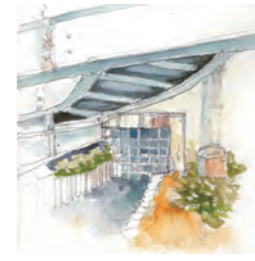
9. 給水ポンプ



10. 螺旋階段



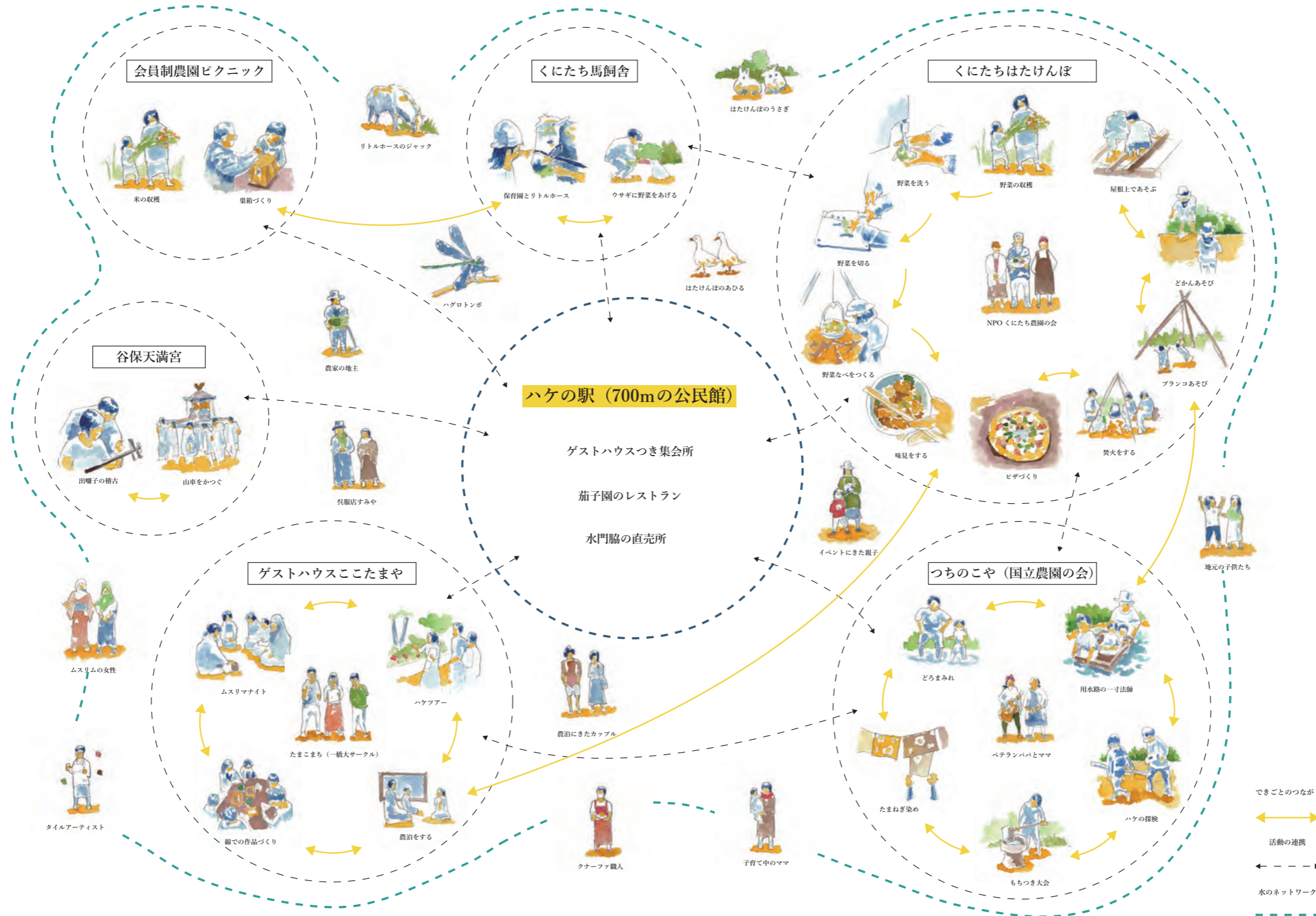
11. 螺旋階段の下



12. 階段下の水門

建築単体で完結しないハケのネットワーク

既にある周辺の生産緑地での NPO の活動に参加し、畑の収穫体験やヒヤリングをもとにハケ沿いの水を介したつながりを図化した。本計画では地元住民とヨソモノで地域の活動を共有するプログラムとして **700mのハケの駅** を提案する。既存の地域の活動と接続することで建築単体で完結しないハケ沿いのネットワークがかたちづくられていく。



設計 使われ方と形態

●使われ方について (ダイアグラム)

NPO での活動体験をもとに縦軸を外からやってきた人が**その場所に関わる時間の長さ**として地域の活動、体験を整理し、そこから時間軸が短い順に3つの計画、野菜を購入する場所、収穫した野菜を食べる場所、宿泊する場所を計画する。

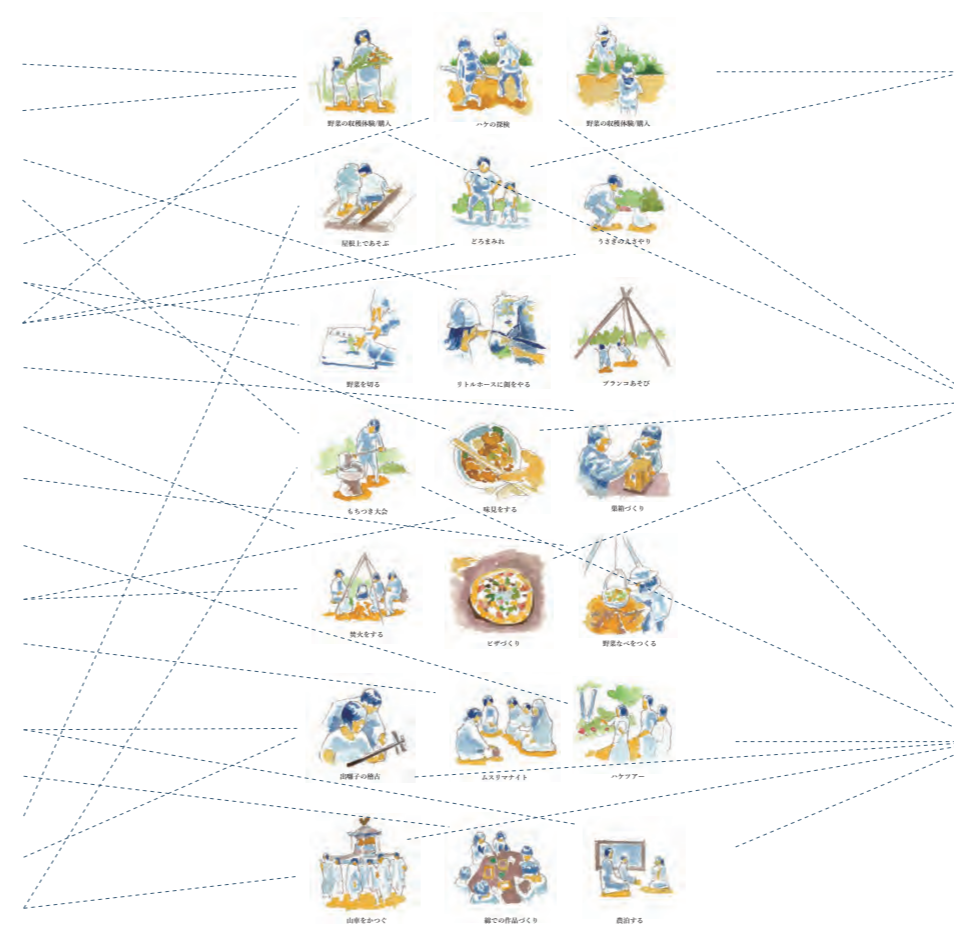
●形態について (断面)

主に地元民が利用する上下動線や既存の集会所の躯体など、数年後機能を変えても残っていくであろう場所を RC 造。外からやってきて地域の活動に参加する人が入り込み、機能展開時に可変な場所を木造としている。そのうえで、外部からやってくるヨソモノに気づきを与え、地域の活動へと巻き込む形態として『示唆』するかたち、『貫入』するかたち、『応答』するかたちを提案する。

地域の活動

- くにたちはたけんぼ
 - 親子田んぼ体験
 - 大人の田んぼ倶楽部
 - くにたち馬飼舎
 - オープンデー
 - 活用事例
 - 東京食農観光
 - 城山であそぼう
 - 週替わり企画
 - はたけびより
 - 子育て悩み事相談室
- たまこまち
 - 学生アテンドツアー
 - 採れたて野菜の朝食プラン
 - ムスリマナイト
- 認定こども園風の子
- 古民家つちのこや
 - つちのこ食堂
 - 谷保のそらっこ
 - 放課後倶楽部ニコニコ
- 城山さとのいえ

体験

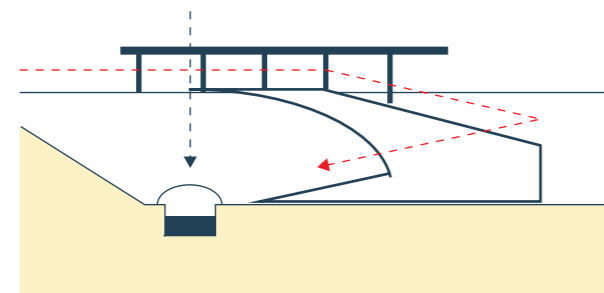


機能

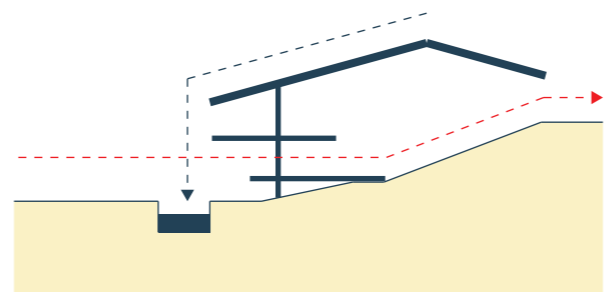


関わる時間の長さ ↓

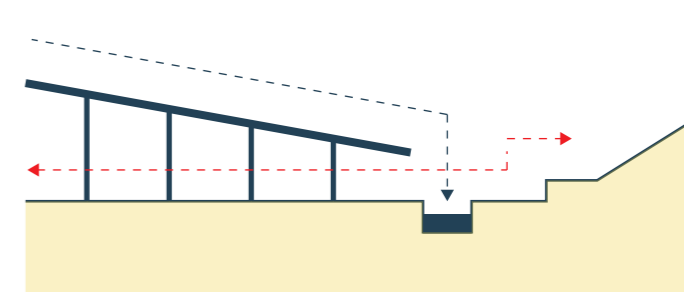
『示唆』



『貫入』



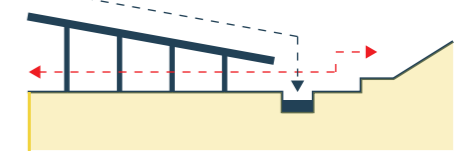
『応答』



設計 700m のハケの駅

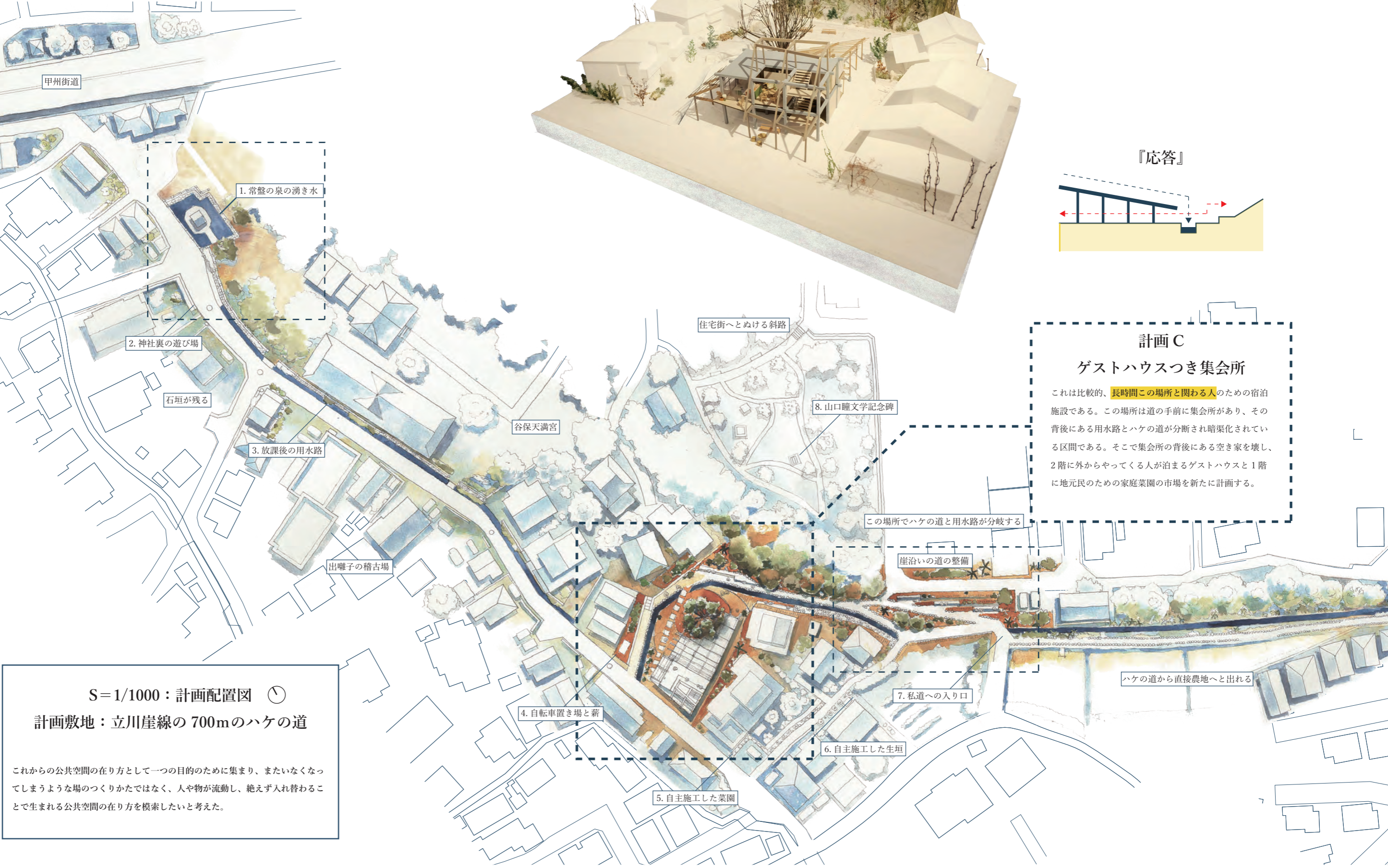


『応答』



計画C ゲストハウスつき集会所

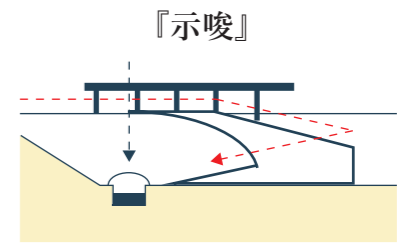
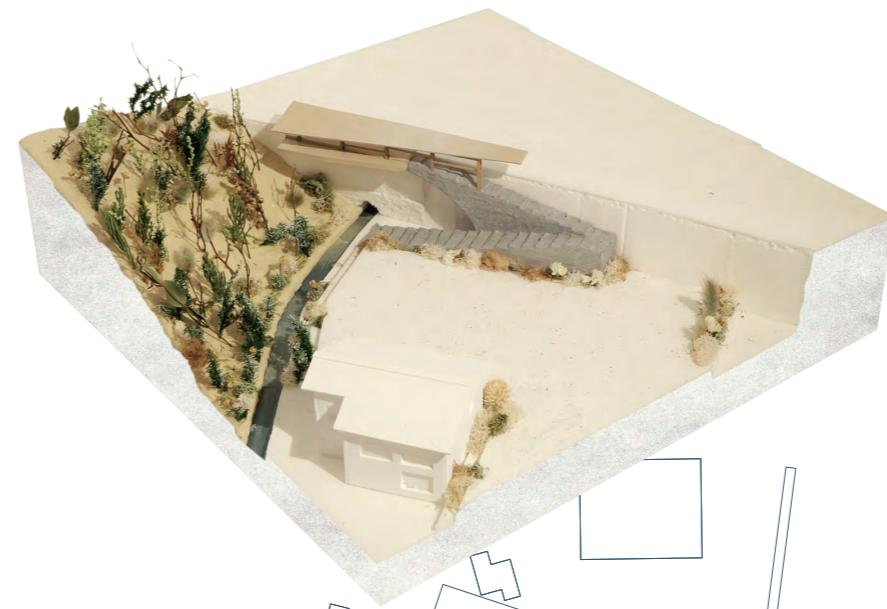
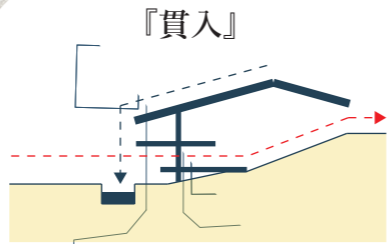
これは比較的、**長時間この場所と関わる人**のための宿泊施設である。この場所は道の手前に集会所があり、その背後にある用水路とハケの道が分断され暗渠化されている区間である。そこで集会所の背後にある空き家を壊し、2階に外からやってくる人が泊まるゲストハウスと1階に地元民のための家庭菜園の市場を新たに計画する。



S=1/1000 : 計画配置図

計画敷地：立川崖線の 700m のハケの道

これからの公共空間の在り方として一つの目的のために集まり、またいなくなってしまうような場のつくりかたではなく、人や物が流動し、絶えず入れ替わることで生まれる公共空間の在り方を模索したいと考えた。

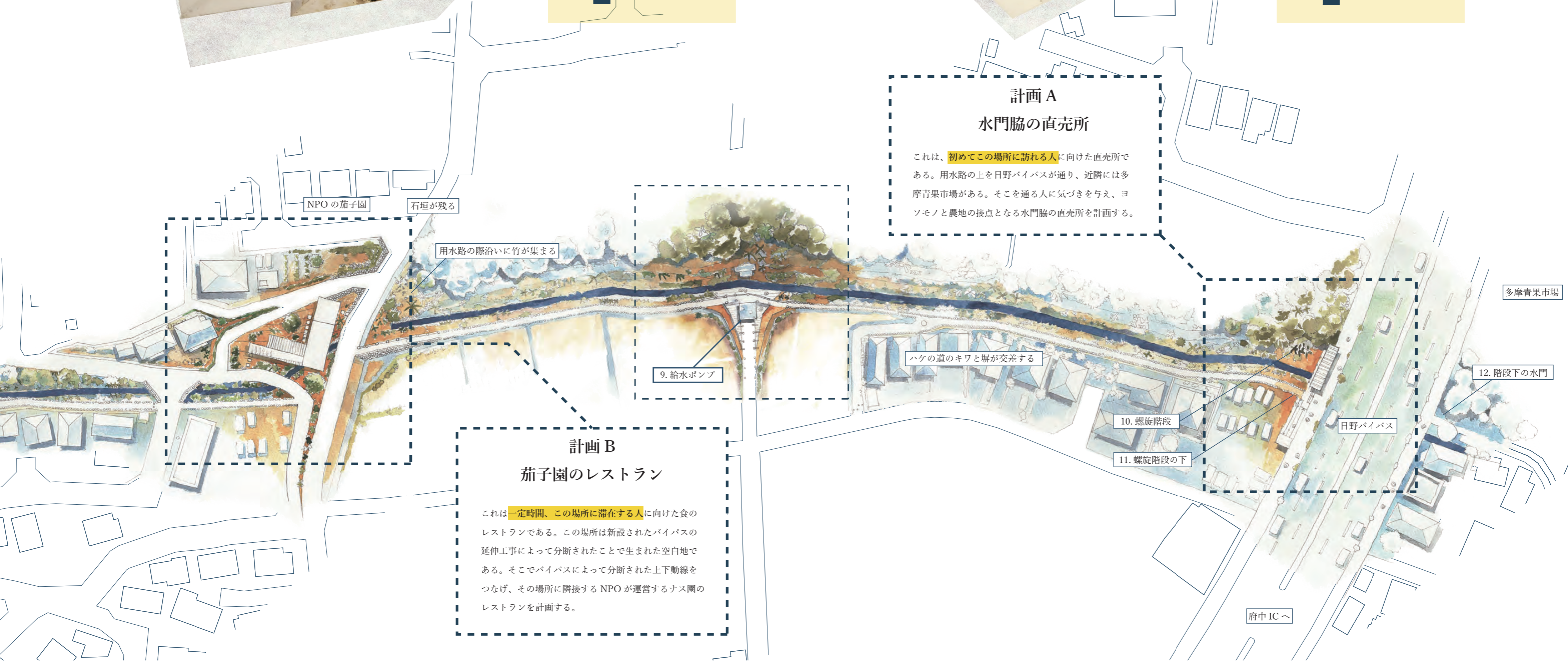


計画 A 水門脇の直売所

これは、初めてこの場所に訪れる人に向けた直売所である。用水路の上を日野バイパスが通り、近隣には多摩青果市場がある。そこを通る人に気づきを与え、ヨソモノと農地の接点となる水門脇の直売所を計画する。

計画 B 茄子園のレストラン

これは一定時間、この場所に滞在する人に向けた食のレストランである。この場所は新設されたバイパスの延伸工事によって分断されたことで生まれた空白地である。そこでバイパスによって分断された上下動線をつなげ、その場所に隣接する NPO が運営するナス園のレストランを計画する。

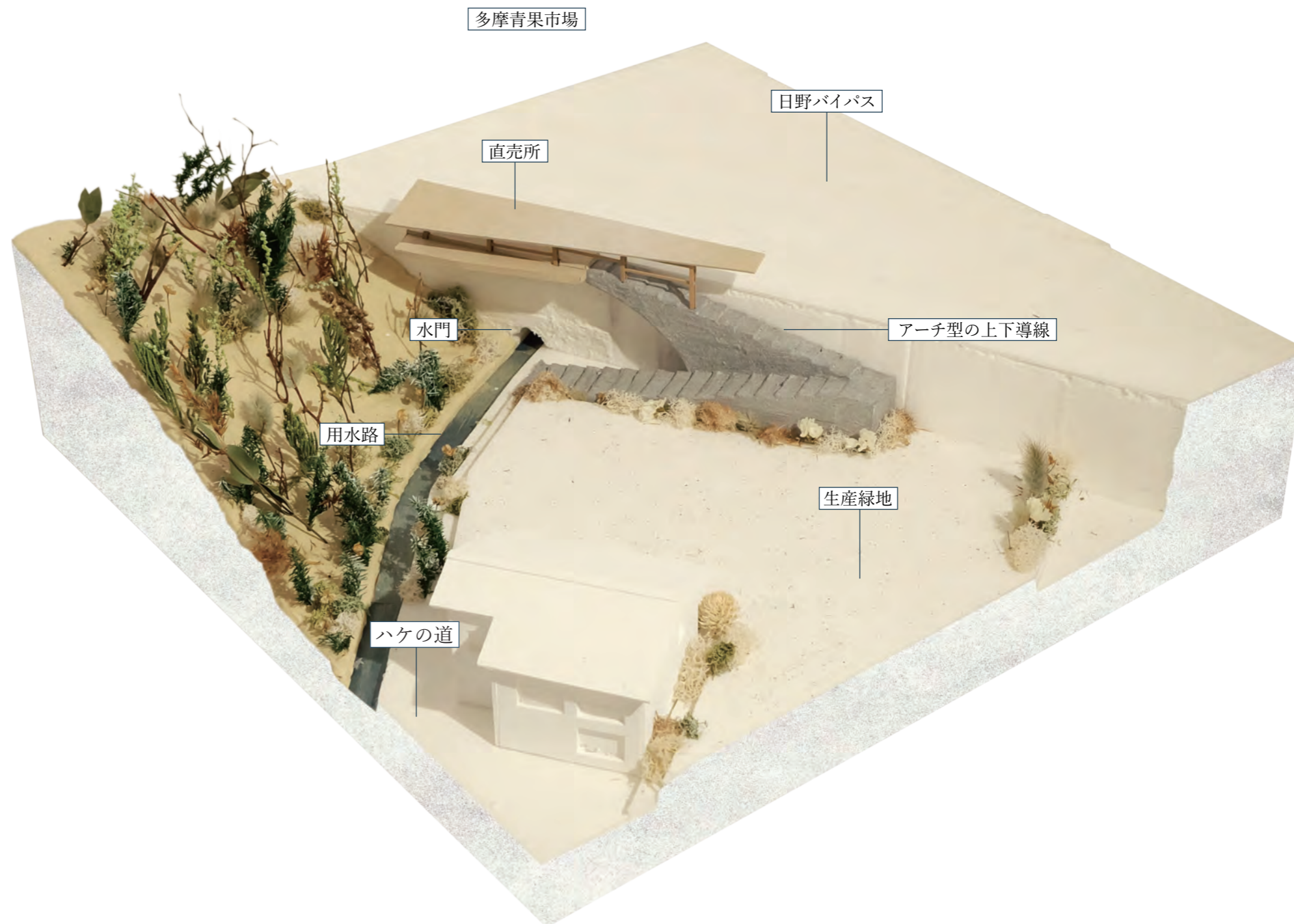
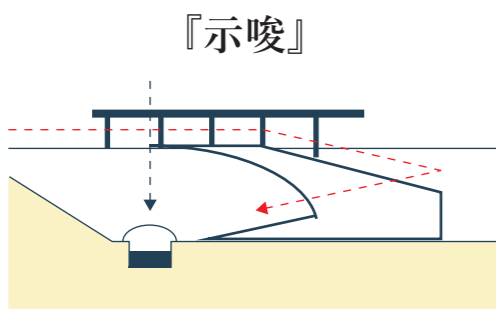




水門のかたちを『示唆』するアーチが、道を通る人に気づきを与える。

計画 A. 水門脇の直売所

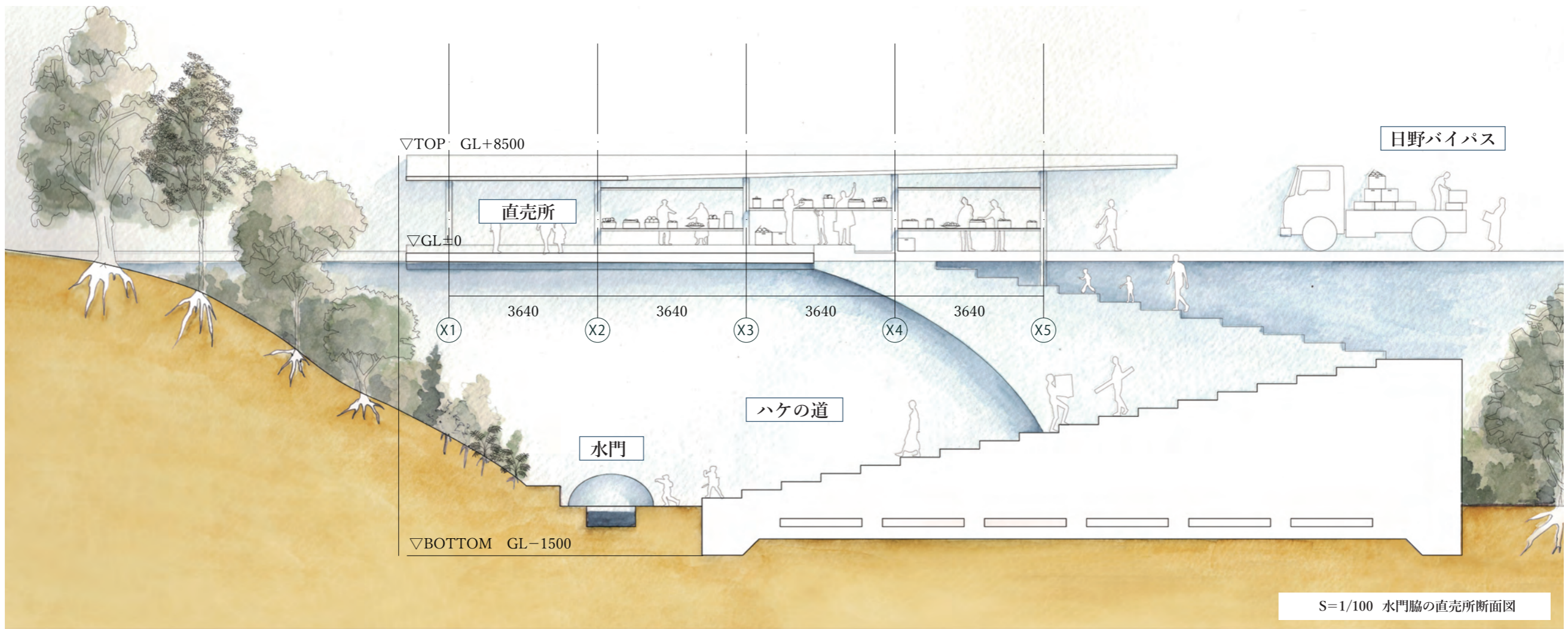
fg.『水門脇の直売所』 S=1/50 計画模型



これは初めてこの場所に訪れる人に向けた直売所である。用水路の上を日野バイパスが通り、近隣には多摩青果市場がある。そこを通る人に気づきを与え、ヨソモノと農地の接点となる水門脇の直売所を計画する。



4月には、5～9月の通水時期に合わせて用水路の清掃活動を行う。朝6時、隣接する多摩青果市場が開かれ、日野バイパスを通過して農地へと訪れる。



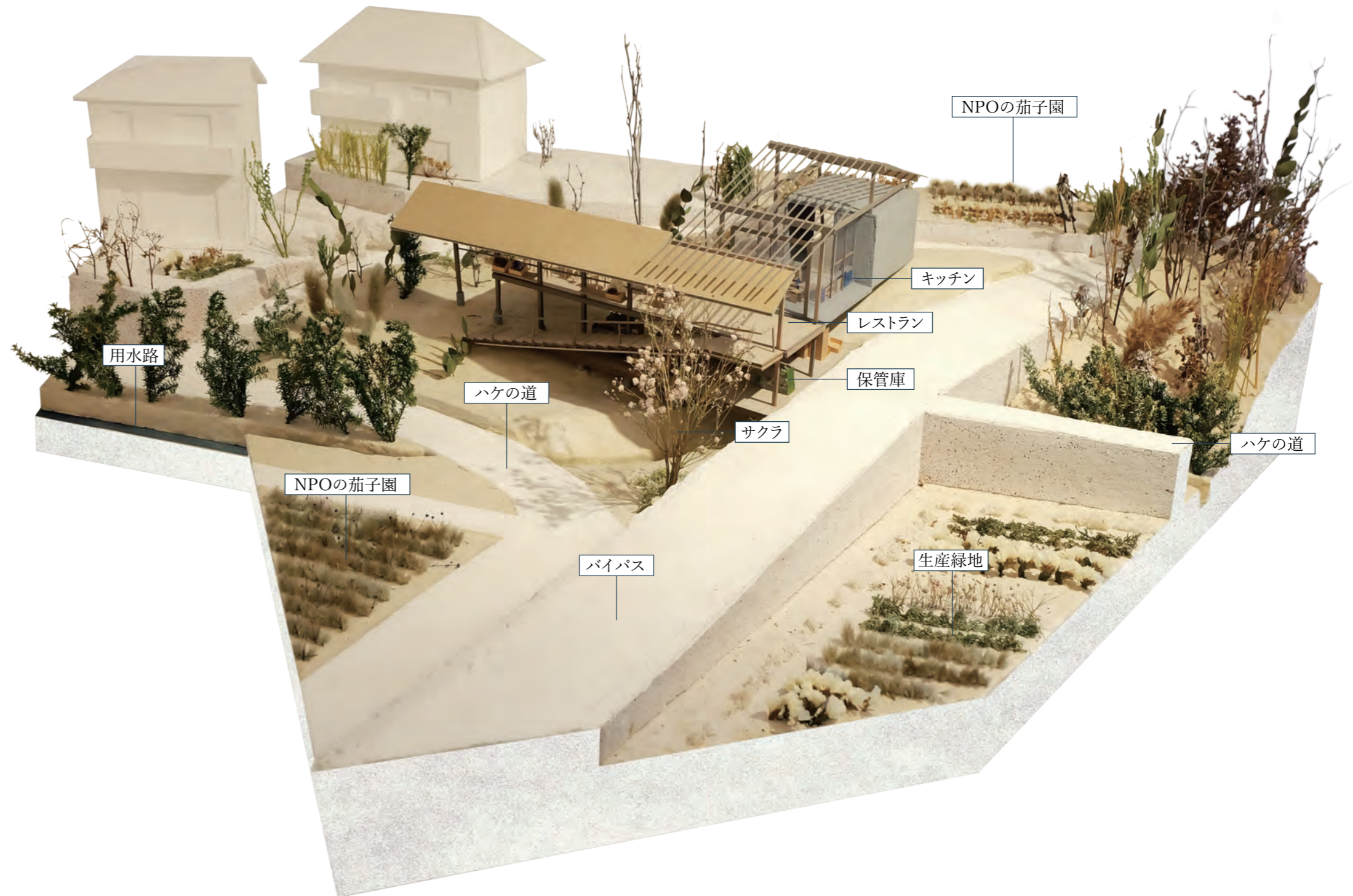
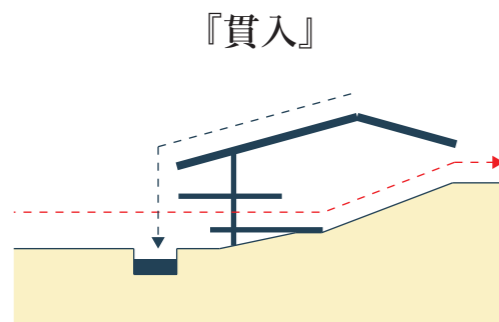
上下導線は既存の水門のアーチを強調するように立ち上げ、ハケの道を通る人に立面的にも水の流れる感じられるような形態とし、上屋は自由に使い方を变化できるような仮設的な架構とした。



大地に『貫入』した建築が、道と地続きでつながる。

計画 B. 茄子園のレストラン

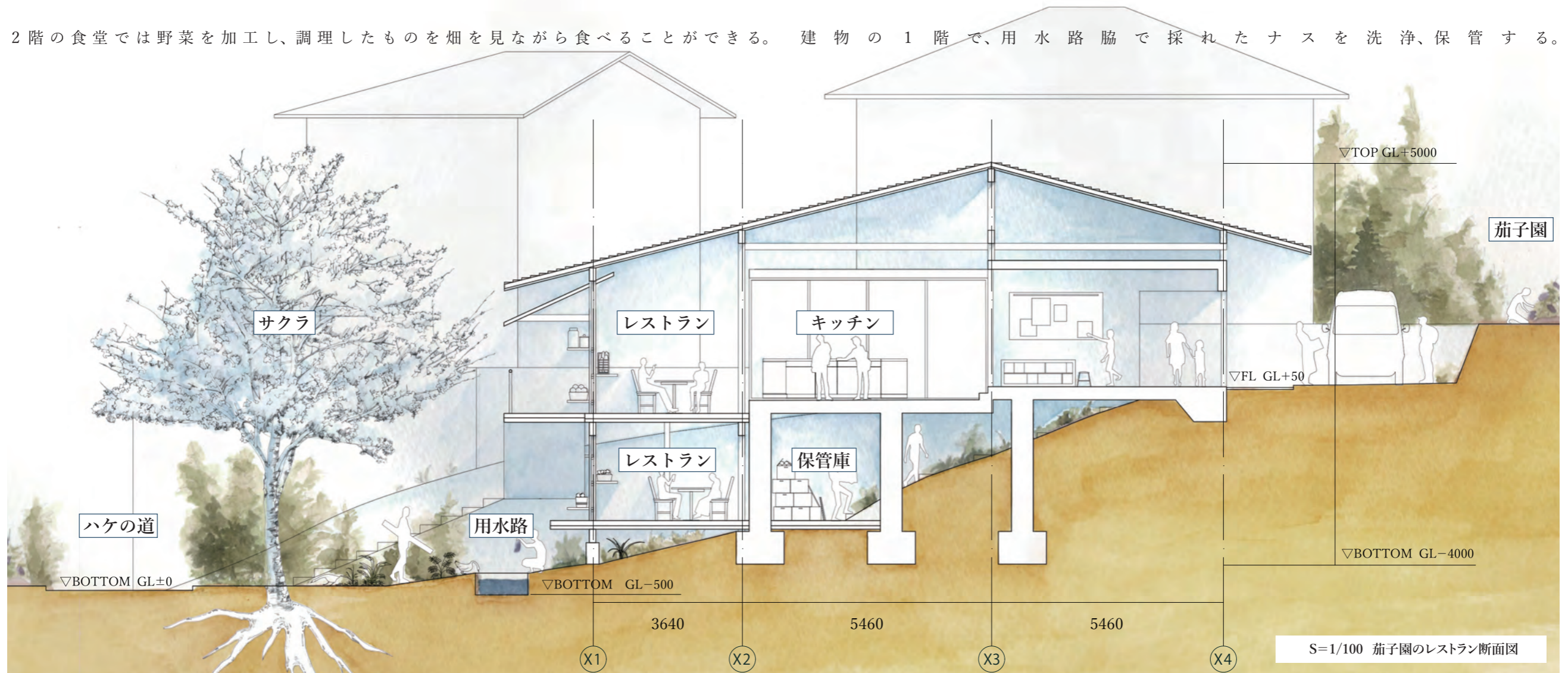
fig.『茄子園のレストラン』 S=1/50 計画模型



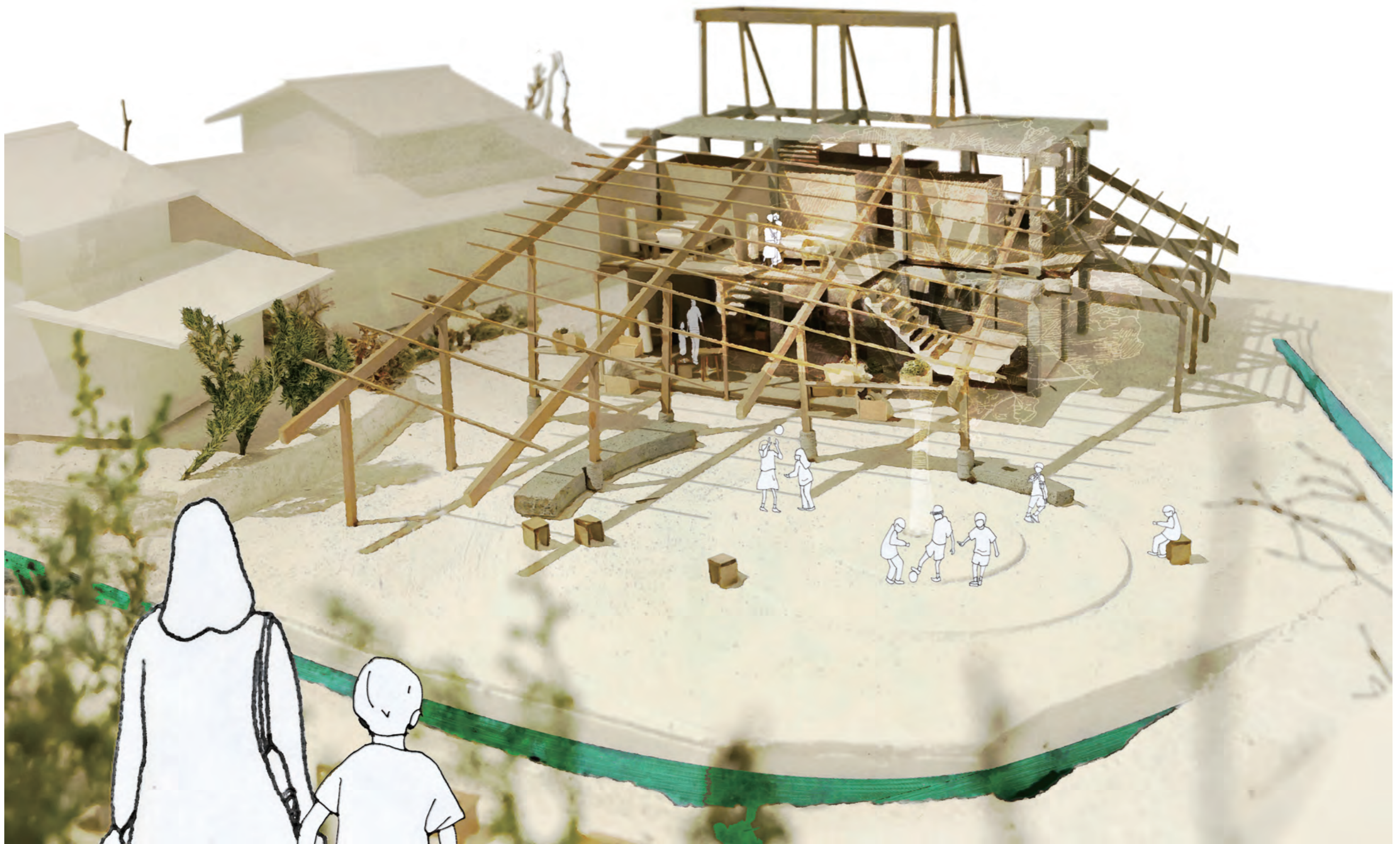
これは一定時間、この場所に滞在する人に向けた食のレストランである。この場所は新設されたバイパスの延伸工事によって分断されたことで生まれた空白地だった。そこでバイパスによって分断された上下動線をつなげ、その場所に隣接するNPOが運営するナス園のレストランを計画する。



2階の食堂では野菜を加工し、調理したものを畑を見ながら食べることができる。建物の1階で、用水路脇で採れたナスを洗浄、保管する。



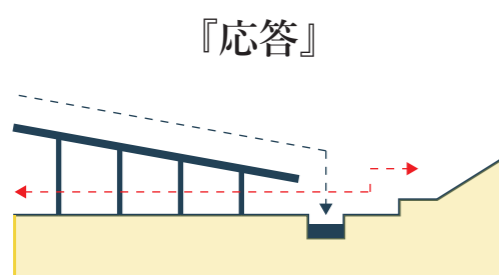
ここではナス園にある農家小屋をモデルとして、ナスを取穫、洗浄、加工、調理、保管する流れを建築化した。



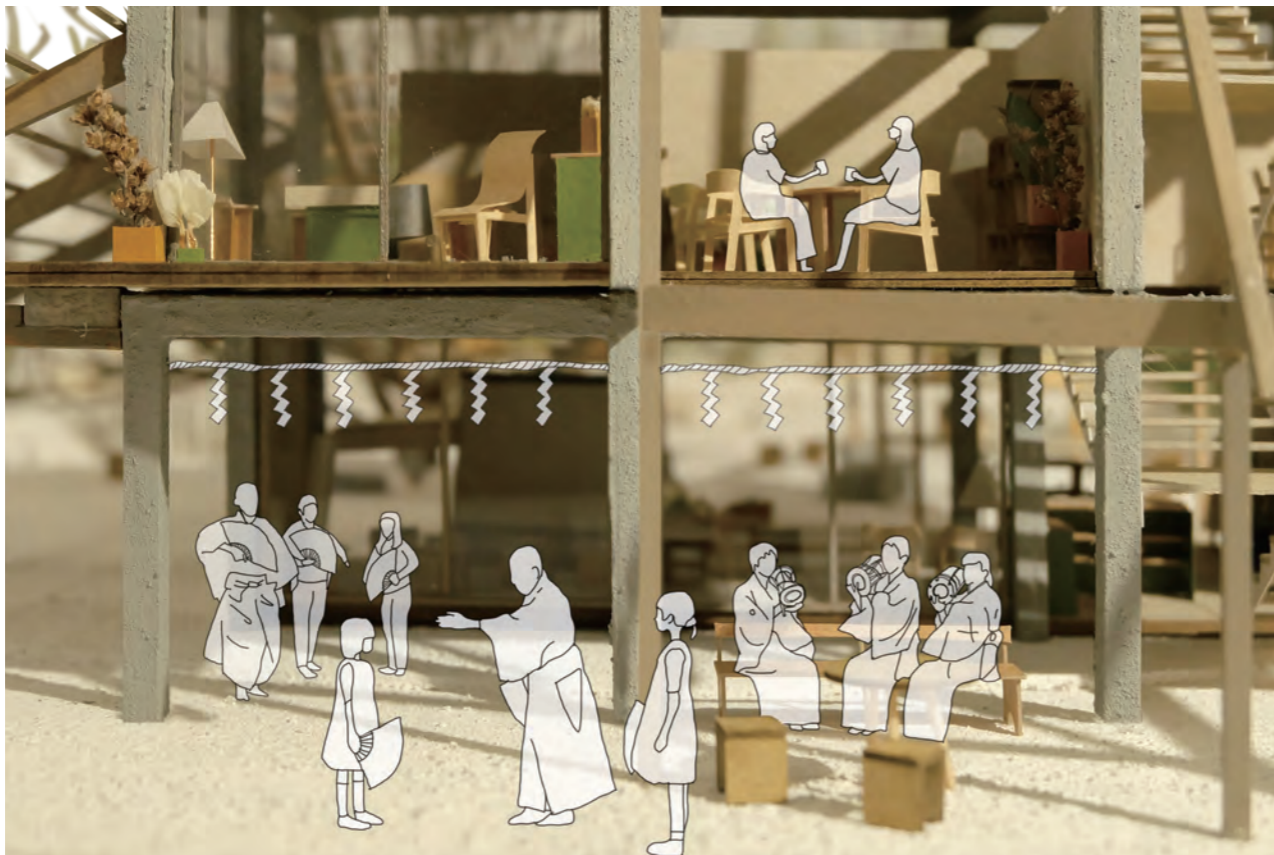
地形と『応答』し、大きく余白を設ける。

計画 C. ゲストハウス付き集会所

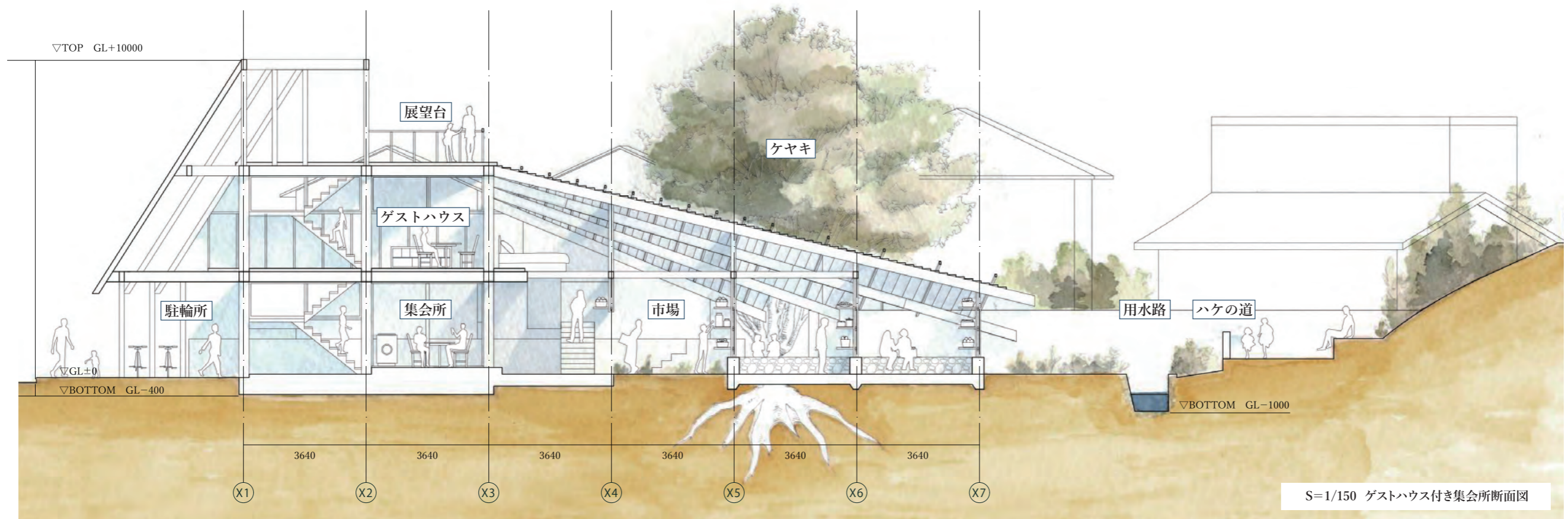
fg.『ゲストハウスつき集会所』 S=1/50 計画模型



これは比較的、**長時間この場所と関わる人**のための宿泊施設である。この場所は道の手前に集会所があり、その背後にある用水路とハケの道が分断され暗渠化されている区間である。そこで集会所の背後にある空き家を壊し、2階に外からやってくる人が泊まるゲストハウスと1階に地元民のための家庭菜園の市場を新たに計画する。



7月、今日は9月に開かれる裏の天満宮の例大祭にあわせて出囃子の稽古をしている。一階、集会所。隣接する6軒の家庭菜園で採れた野菜の市場が開かれる。



既存の集会所の躯体に雨水を効率的に用水路に流すことができる形状の屋根を付加し、地元住民が自由に出入りできる場所をつくと同時に、用水路と並行して歩くことができるハケの道の入り口を計画した。